鹿児島大学病院広報誌

20号。2011.1

鹿児島大学医学部·歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会



【診療科·部門紹介】

- >>> 小児歯科
- >>> 皮膚科
- 病院再開発 手術部エントランスホール 絵画の紹介
- 医科・歯科外来ご案内図
- 錦江湾魚ごよみ
- トピックス

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマントータルケア 病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の 充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に 立った、質の高い医療を提供します。

基本 方針

- 患者さんの権利を尊重し、安心で安全な納得のいく治療を 心がけます。
- 2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
- 3. 教育·研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
- 4.診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯 学及び医療の国際貢献を目指します。
- 5.安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

- 1.誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
- 3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報は保護されます。
- 4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
- 5.診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供 を受ける権利があります。

〈患者さんの責務〉

- 1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるたけ正確に伝える責務があります。
- 2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

新部門科長紹介



呼吸器ストレスケアセンター呼吸器外科 科長 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 呼吸器外科学 教授

雅美 佐藤 先生 (さとう まさみ)

医学博士、日本外科学会指導医、日本呼吸器外科学会専門医、 日本胸部外科学会指導医、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医·専門医、 日本臨床細胞学会細胞診専門医·指導医

1982年東北大学医学部卒

2001年東北大学加齢医学研究所助教授 2002年文部科学省在外研究員(ハーバードメディカルスクール

宮城県立がんセンターを経て2010年9月より現職

専門は呼吸器外科学。気管支鏡検査、喀痰細胞診にも精通。

国際気管食道科学会:Ikeda-Dotai Prize受賞

ご挨拶

平成22年9月1日付けで鹿児島大学病院に呼吸器外科が 開設され、同時に同部門科長を拝命いたしました。鹿児島大 学で呼吸器外科を行っていた2つのグループの医師が一つ となり、新しい呼吸器外科を担っております。呼吸器外科で は、増加の著しい肺癌をはじめ、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、膿胸、 気胸などの外科治療はもちろん、気管支鏡や縦郭鏡による 呼吸器疾患の診断、さらには全国一の症例数を誇る硬性気 管支鏡による気道病変の治療など、その専門性を駆使した 医療を行っております。また、地域連携パスを通じて地域の 開業の先生方とのネットワーク作りを目指しており、地域の 幅広い皆様に信頼され、お役にたてる呼吸器外科を目指し ております。どうか、御支援・御協力のほど、よろしくお願い申 し上げます。

■受診案内(2010年11月より予約制)

呼吸器外科 初診:TEL 099-275-5168

再診:TEL 099-275-5803, 5815

<初診日>火·水·木 <再診日>月·火·水·木

お子さまの食べる力の成長を支援

小児歯科

小児歯科では、①子どもや障害者のむし歯治療、②歯並びやかみ合わせの早期治療、③口唇口蓋裂患者へ の支援、④子どもの顎関節治療を主に行っています。また、歯科治療を受け入れられない方のために、笑気吸 入鎮静法や静脈内鎮静法、全身麻酔下歯科治療を積極的に取り入れています。

また、平成22年4月からは、お子さまが上手に食べられるように支援を行う、「もぐもぐ外来」という専門外 来を開設しています。一般的に、子どもの食べる力は体や心の成長に合わせて向上しますが、障害を持った り、小さく産まれてきたり、食事環境が不適切な場合は食べる力の成長が遅れることがあります。そのために、 低栄養や肥満になったり、上手く飲みこめずに食べ物をのどに詰まらせたりします。さらには肺炎にかかりや すくなります。

そこで、「もぐもぐ外来」では検査や観察を通してお子さまの 食べる力の評価を行い、適切な食事の姿勢ならびに食べ物の 硬さや大きさを考えます。さらに歯科医師や歯科衛生士による 専門的な口腔ケアや訓練を通して安心・安全に食べられるよう に支援します。

お子さまの食べ方でお悩みの方はご遠慮なくご相談下さい。 <初診受付>月~金(8:30~16:00)

TEL 099-275-6630



皮膚に出るサインから全身の病気に迫る

皮膚科

皮膚科では、髪の毛から爪の先まで、また口の中の粘膜など、からだの外から見える部分すべてを診療しています。皮膚表面のかぶれなどの炎症やできもの(良性・悪性腫瘍)はもちろんですが、体の内部の異常に伴って皮膚に症状が出ることもあります。

ただ目で見たり触ったりするだけではなく、肉眼で見ただけでは区別の難しいほくろと皮膚がんを見分け

るために、ダーモスコープという専用の拡大鏡を使って診断します。また、皮膚に出ている症状の原因を明らかにするためには生検による病理組織検査(皮膚を5mmくらい切り取って、それを薄く切り、特殊な色をつけて顕微鏡で見ます)を行います。これによって、腫瘍なのか炎症なのか、また原因になっている細胞の種類や、小さな血管に炎症があるかどうか、からだの中あるいは外どちらからの原因による症状なのかなどを調べて診断します。

このように皮膚に出ているわずかなサインから全身の病気に 迫れるよう診療にあたっています。外から見える部分のトラブル は何でも当科にご相談ください。

<初診受付>月·火·木·金

※予約制(初診時に紹介状必要)

診療に関する問い合わせ先(皮膚科外来) TEL 099-275-5850 初診予約先(地域医療連携センター) TEL 099-275-5168



ダーモスコープによる診断 ①肉眼で見たもの ②ダーモスコープに よる拡大



病理組織診断 毎週皮膚科医と病理医で検討会を行っています。

TOPICS

病 院 再 開 発 現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行います。 期間中、ご不便をおかけいたしますが、ご協力お願いします。

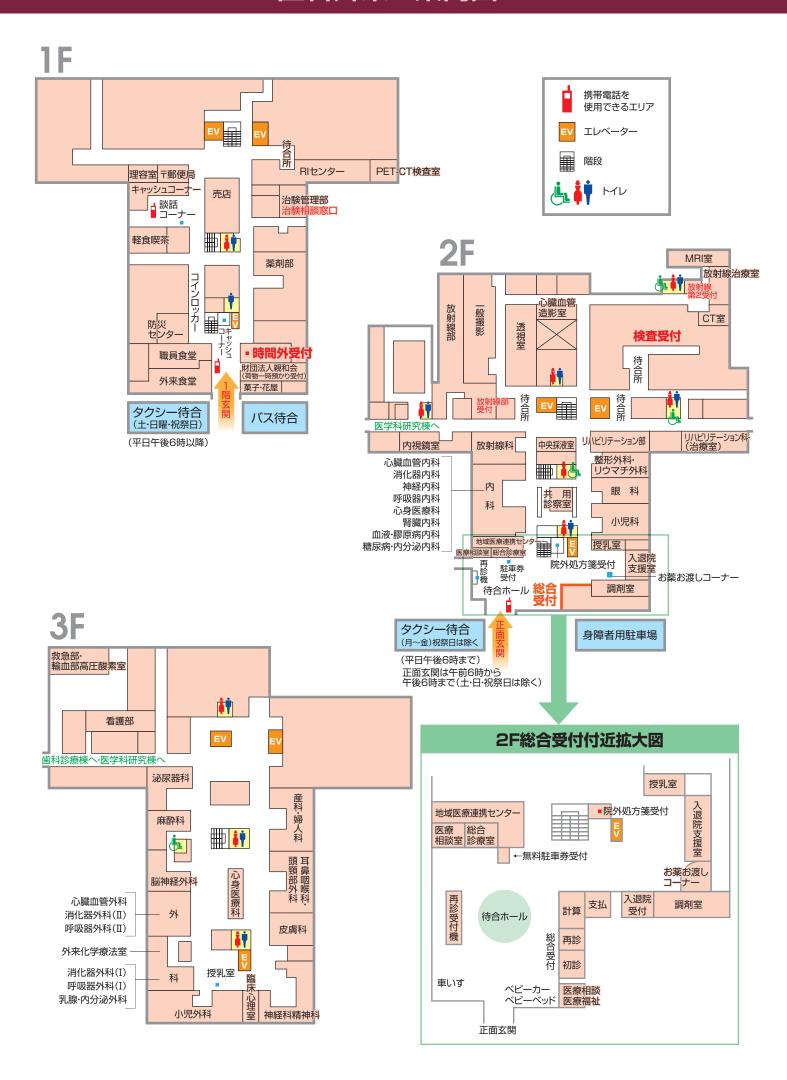
手術部エントランスホール 絵画の紹介

昨年11月から稼動した手術部エントランスホール(医科病棟4階)に、教育学部准教授の桶田洋明先生の絵画作品が展示されています。「森の光彩」と名付けられた本作は、自然の普遍的な美しさと生命の尊さをテーマに、霧島の風景を中心とした構成に、県鳥のルリカケス、県花のミヤマキリシマを配し、地域の特色を表現しています。手術を受けられる患者さんやご家族の癒しの一助になってくれればとの作者の思いがこめられています。

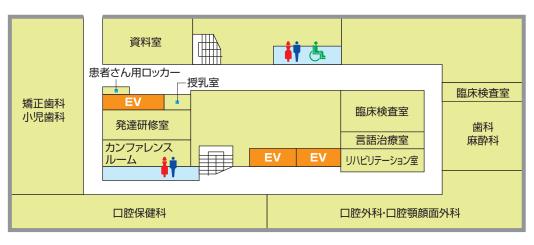


「森の光彩」

医科外来ご案内図

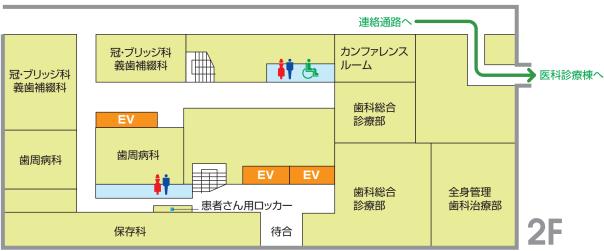


歯科外来ご案内図

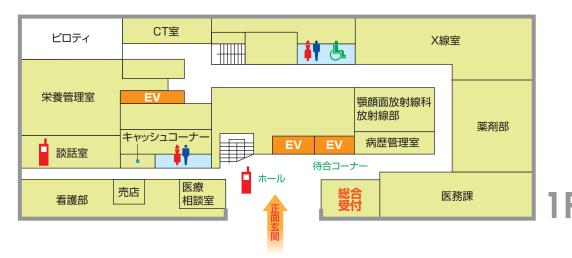




3F



2階の連絡通路を利用して医科診療棟へ行くことができます。









歯科診療棟

深みの宝石



桜島南岸、どこまでも落ち込んで行く溶岩の崖を、真っ直ぐに潜降していきます。水深 55 m を越えたあたりから、急に視野が狭くなり、体が重く感じられます。レギュレーターを通して呼吸する空気の中の窒素が、水圧下で軽い麻酔のような作用を起しているのです。意識を集中して、水深計の示す水深に注意しながらあたりを見渡しました。崖の途中、所々にある小さな岩だなに目を凝らします。

水深 62m、ある岩だなを水中ライトが照らし出した時、桃色の小さな影がパッと散りました。再び慎重に減 光した水中ライトで照らします。海底から少し離れて浮遊する美しい小さな魚に、胸は高鳴ります。少し落ち 着いて見ると、驚いたことに 100 個体近くの群れがそこにいました。その中の 1 個体をファインダーに捉え、 震える手で水中カメラを握り締め、夢中でシャッターを切りました。錦江湾の海底に、これほどに美しい未知 の魚が暮らしていたのです。

その後約2年の研究を経て、2009年12月新属新種として発表されました。和名モモイロカグヤハゼは、妻と二人、美しくはかなげなこの魚に合う名前をと知恵を絞りました。学名は、Navigobius dewa となりました。属名Navigobiusuは、泳ぐハゼという意味。種小名dewaは、記載論文を執筆した鹿児島大学の本村博士とオーストラリア博物館の Hoese 博士が、私の名前をつけてくれました。



深場の暗がりの中、輝くようなモモイロカグヤハゼ

TOPICS

イルミネーション点灯式

鹿児島大学病院では今年で3回目となるイルミネーション 点灯式が、11月29日夕方、病院医科診療棟1階玄関前で入院 患者さんや病院長などの関係者が出席して開催されました。

このイルミネーションは、財団法人親和会から、入院患者さんや病院を訪れる方々へ「温かい光の癒し」として提供されたものです。

病院長、看護部長、小児科入院中の子どもさんにより、スイッチが押されると、電飾されたツリーや雪だるま、トナカイなどが一斉に輝いて出席者から大きな拍手と歓声があがりました。

イルミネーションは、1月中旬まで点灯され入院患者さんや来訪者の方々の目を楽しませてくれます。





▲ 二 広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気についての一般 知識など知りたいことがありましたら、お知らせ ください。

また、「桜ケ丘だより」への皆様方からのご意見・ ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ケ丘だより〈20号〉

2011(平成23)年1月発行

発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会 〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/